

# 徳島大学

# サマープログラム2013報告書



〈編 集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会  
*Summer Program Organizing Committee*  
*The University of Tokushima*



---

## 卷頭言

---

社会のグローバル化が叫ばれて久しくなります。どこかの小さな国で何かが起きると世界が影響を受けるという情勢は、世界が広くなり、同時に狭くなつたことを意味するものであります。グローバリゼーションという概念は、次第にその深みと広さを増し、質的にも量的にも変化を遂げつつあります。国内にとどまつてもグローバル化の影響を必ず受ける状況にあっては、地方におけるグローカリゼーション、情報の発信、受信のグローバルスタンダード化などの課題は避けて通れません。大学教育におけるグローバル化教育は、年々その重要性が増しています。しかし、一方で日本の大学生の留学志向が薄らいでいるとの指摘もあります。国内にとどまる内向き志向では、これから日本社会は、どのような分野においても大きな壁に立ちふさがれることでしょう。言うまでもなく、グローバリゼーションとは、単に外国に行く、外国語を話せる、文化を理解することにとどまるものではなく、国際社会を担う創造的な人材をどう排出するのかという問いかけであるはずです。

徳島大学の学生を留学させて、外国から多くの留学生を招き入れるという課題は、新しい時代に即し、新しい国際感覚を身につけた人材育成を図ることを目標とすることによって初めて、その意義を持つものと思われます。そのためには、一気に外国への留学を目指すというのではなく、留学で何を学ぶのか、何を得るのかといった目的意識が非常に重要であると言えるでしょう。入学して間もない初年次の学生も参加するサマープログラムは、その後の学生生活において、また卒業後においても留学へのモチベーションのみならず、グローバルスタンダードを理解する上でも重要な意味を持っていると言えます。何よりも、モチベーションの高揚こそが教育のグローバル化の第一歩となります。

2013年度においても、多くのサマープログラムが実施されました。訪れた学生は多くの国にわたっています。徳島大学の学生にとっても専門教育や教養教育を通じた交流によって、少なからず世界へ目を向ける契機となったものと確信します。大学側としても毎年開催されるサマープログラムを通して、問題点を明らかにし、一つ一つ課題を解決しながら、より充実したプログラムへと発展させ、さらに多くの学生が参加できるような体制づくりに努力していく必要があります。2012年度より、本学では、全学的な委員会としてサマープログラム等実施委員会が設立されました。2年目を終える委員会の討議の中から、日程の統一化、講師の相互派遣といったプログラム相互の交流が進展したことは大きな成果といえるでしょう。今後とも関係部局である国際センター、国際課をはじめ、各学部、各センターとも協力しながら、全学あげた徳島大学独自のグローバル化教育の深化が図られればと願う次第です。

最後に、本年度における各サマープログラムに尽力された教員、事務職員の方々、参加された学部学生、大学院生の皆さんに心から感謝申し上げます。

平成26年3月

荒木 秀夫  
サマープログラム等実施委員会委員長

---

# 目次

---

1 サマープログラム2013.....	4
1.1 サマープログラムの目的.....	4
1.2 沿革.....	4
1.3 実施概要.....	6
1.4 単位の認定.....	7
2 サマープログラムの実施報告.....	8
2.1 総合科学部サマースクールプログラム.....	8
2.1.1 目的.....	8
2.1.2 日程.....	8
2.1.3 講義概要.....	9
2.1.4 エクスカーション .....	11
2.1.5 修了証書.....	18
2.1.6 アンケート集計結果.....	20
2.1.7 成果報告.....	21
2.2 ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム .....	23
2.2.1 目的.....	23
2.2.2 日程.....	23
2.2.3 講義概要.....	26
2.2.4 エクスカーション .....	28

2.2.5 修了証書	29
2.2.6 アンケート集計結果	30
2.2.7 成果報告	37
2.3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」	38
2.3.1 目的	38
2.3.2 日程	38
2.3.3 講義概要	41
2.3.4 エクスカーション	42
2.3.5 修了証書	43
2.3.6 アンケート集計結果	44
2.3.7 成果報告	52
2.4 ソシオテクノサイエンスコース	55
2.4.1 目的	55
2.4.2 日程	55
2.4.3 講義概要	66
2.4.4 エクスカーション	69
2.4.5 修了証書	72
2.4.6 アンケート集計結果	73
2.4.7 成果報告	76
3 総括	77
4 今後の課題とまとめ	78
5 参考	83
6 担当者一覧	84

# 1 サマープログラム2013

---

## 1. 1 サマープログラムの目的

1. 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
2. 学術交流協定校との関係を強化する
3. 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
4. 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
5. 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
6. 英語による授業を拡充する

## 1. 2 沿革

### (1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム—サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進—」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～H21年3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

### (2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

#### (3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース（新蔵地区・常三島キャンパス）
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース（常三島キャンパス）

#### (4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

#### (5) 2012 (H24) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール（常三島キャンパス）

(6) 2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール（常三島キャンパス）

### 1. 3 実施概要

開講コース	・平成25年6月18日～8月12日（第1期：6/18～7/15、第2期：7/16～8/12）  <b>総合科学部サマースクールプログラム</b>  ・平成25年8月2日～8月9日  <b>医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の各教育部の統合医療学際教育英語プログラム</b>  ・平成25年8月5日～8月9日  <b>国際センター サマースクール 「徳島であおう」</b>  ・平成25年8月6日～8月12日  <b>先端技術科学教育部の電気・電子工学コース、知能情報工学コース、ナノテクノロジー・マテリアルサイエンス工学コース</b>  各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	・徳島大学 蔵本キャンパス、常三島キャンパス、新蔵地区
対象学生	・学術交流協定校等からの留学生・教員 ・本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

## 1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：

・ヘルスバイオサイエンスコース受講者 国際統合医療特論 2単位

・ソシオテクノサイエンスコース受講者 国際先端技術科学特論Ⅰ 2単位

・総合科学部サマースクール（第1期）受講者

　　全学共通教育科目「城下町徳島と江戸時代の流通」 2単位

　　〃 「グローバル・コミュニケーションⅠ」 2単位

・総合科学部サマースクール（第2期）受講者

　　全学共通教育科目「グローバル・コミュニケーションⅡ」 2単位

## 2 サマープログラムの実施報告

### 2.1 総合科学部サマースクールプログラム

#### 2.1.1 目的

グローバル化が進行する中で、異文化に対する理解力・コミュニケーション力を身につけることが必要になっている。さらに、新しい時代に必要な価値観を創造して、グローバル社会で活躍できる人材の育成が、大学改革に課せられた急務の課題である。総合科学部2013サマースクールでは留学生と日本人学生が受講する3つの集中講義の授業を開設する。授業に参加した日本人学生と留学生が、授業だけでなく、課外活動も含めたピア学習を行い、お互いの言語や文化を学びあう。また、グループワークで、「グローバル社会」「持続可能な社会」などについての議論を行う。このような学生同士の対話を通じて、コミュニケーション力と異文化理解を深める。グローバルな視点を育成するために、できる限り多くの国的学生が参加するプログラムにする。このプログラムで外国の大学生と友好関係を築いた日本人学生は、異文化理解に対する興味を高め、交換留学などの制度による留学に興味をもつようになる。このようにして、日本人学生と諸外国の学生との友好関係を深め、プログラムで培われたグローバル社会への対応力を、自主的な活動や、留学に対する動機付けとして発展させて、グローバル社会に対応できる人材を育成することを目的とする。

#### 2.1.2 日程

期 間： 第1期：6月18日（火）から7月15日（月）まで

第2期：7月16日（火）から8月12日（月）まで

参加人数： 第1期：8名（ダブリン・シティー大学5名、リュブリヤナ大学1名、モンゴルビジネス大学1名、モンゴル科学技術大学1名）

第2期：12名（ダブリン・シティー大学5名、リュブリヤナ大学1名、モンゴルビジネス大学1名、モンゴル科学技術大学2名、青島理工台学2名、ヴェネツィア・カ・オスカリ大学1名）

### 2.1.3 講義概要

第1期には2つの講義「城下町徳島と江戸時代の流通」、「グローバルコミュニケーションⅠ」を、第2期には1つの講義「グローバルコミュニケーションⅡ」を全学共通教育の共創型学習において集中講義の授業として開講し、留学生と日本人学生がともに受講できるようにした。

#### (1) 城下町徳島と江戸時代の流通

【授業担当教員】桑原恵

【授業の目的】

江戸時代における城下町の特徴を徳島の事例を通して理解し、また城下町の構造や町について学ぶことで前近代の日本の都市の特徴を理解する。さらに、江戸時代の流通や経済についても理解を深める。

【授業の概要】

江戸時代の城下町徳島の絵図と、現在の徳島の絵図を比較しながら、現在の徳島にも江戸時代の名残があることを理解し、江戸時代の典型的な都市である、城下町の特性を「徳島」を通して理解を深めていく。そして、城下町が流通の拠点であったことを踏まえ、江戸時代の流通と経済についても理解を深める。講義を通して、江戸時代の都市、流通と経済、交通などについて理解を深め、江戸時代の城下町徳島の繁栄について理解を深める。

#### (2) グローバルコミュニケーションⅠ

【担当教員】齊藤隆仁、大橋眞、佐藤高則

【授業の目的】

グローバル化の時代を迎え、異文化理解の必要が高まっている。この授業では日本人学生と留学生が集まり、国や文化によって価値観の異なる話題について、その価値観とその背景をお互いに伝え合うことから異文化を理解し、相手を尊重する態度を身につけることを目的とする。

### **【授業の概要】**

この授業では、留学生と日本人学生が、国や文化によって異なる価値観の話題についての議論とプレゼンテーションを通じて異文化理解を深める。毎回、お互いの文化に対する理解を深めるようなテーマ（英会話、お互いの伝統文化や教育・医療・福祉・環境など）を設定し、学生間で議論をする。授業時間での議論をもとに、授業時間外も含めたピア学習（お互いに学びあう体験）を通じて異文化理解を深める。

また課外活動としてホームステイを行う。日本人学生は留学生のホームステイの意義について知り、可能な限りホームステイを受け入れる。留学生はホームステイを通じて日本の暮らしを体験し、経験を背景とした日本の文化を学習する。

### **(3) グローバルコミュニケーションⅡ**

#### **【担当教員】齊藤隆仁、大橋眞、佐藤高則**

### **【授業の目的】**

グローバル化の時代を迎え、異文化理解の必要が高まっている。この授業では日本人学生と留学生が集まり、国や文化によって価値観の異なる話題について、その価値観とその背景をお互いに伝え合うことから異文化を理解し、相手を尊重する態度を身につけることを目的とする。

### **【授業の概要】**

この授業では、留学生と日本人学生が、国や文化によって異なる価値観の話題についての議論とプレゼンテーションを通じて異文化理解を深める。毎回、お互いの文化に対する理解を深めるようなテーマ（英会話、お互いの伝統文化や教育・医療・福祉・環境など）を設定し、学生間で議論をする。授業時間での議論をもとに、授業時間外も含めたピア学習（お互いに学びあう体験）を通じて異文化理解を深める。

また課外活動としてホームステイを行う。日本人学生は留学生のホームステイの意義について知り、可能な限りホームステイを受け入れる。留学生はホームステイを通じて日本の暮らしを体験し、経験を背景とした日本の文化を学習する。

## 2.1.4 エクスカーション

「Pilgrimage Walking Experience, Fujii Dera to Shousannji」と「2013 International Student Conference in Kamikatsu」のエクスカーションを実施した。

### (1) Pilgrimage Walking Experience, Fujii Dera to Shousannji

【概要】留学生短期受入授業での自然・文化体験を通した学習

【実施日時】平成25年7月27日（土）

【実施場所】藤井寺、井戸寺、観音寺、柳水庵、大日寺、常楽寺、国分寺、焼山寺、神山温泉

【参加者】留学生8名、日本人学生1名、教員2名、社会人4名

【その他】交通機関は借上バスを使用





## (2) 2013 International Student Conference in Kamikatsu

### 【概要】

上勝町で自然・文化見学とインターンシップ短期体験を通した学習

### 【実施日時】

平成25年8月8日（木）～8月10日（土）

### 【実施場所】

上勝町（山の楽校、千年の森ふれあい館、日比谷ゴミステーション、八重地田中家、慈眼寺、久保の大杉、いろどり農家、茶摘み体験、高丸山森づくり活動、竹細工）

### 【参加者】

留学生 35 名（総合科学部サマースクール 6 名、STS サマープログラム 29 名）日本人学生 6 名、教職員 7 名

【その他】交通機関は借上バスを使用、STS サマープログラムと共同開催

【スケジュール】

**Day 1: August 8<sup>th</sup>**

07:45	Gathering in front of Ele Building (registration) & Departure
08:50	Visit Hibiya Trash recycle center (Recycling system and Kurukuru Shop)
09:30	Arrival at Mountain School 山の楽校(Yama-no-Gakko) Orientation at Friendship Hall
10:00-11:30	<b>Lecture 1</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. "Giant trees, Sacred Trees" MASAYA SATOH (The University of Tokushima)</li> <li>2. "Floral characteristics in temperate region Shikoku - condensed plant diversity is currently threaten." TAKASHI YAMASHIRO (The University of Tokushima)</li> </ul>
11:30-12:30	Lunch Meeting and Self-introduction
12:30-13:00	Break time
13:00-14:50	<b>Group discussion &amp; Preparation of Poster</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. Please express your first impression in Kamikatsu.</li> <li>2. What did you find the difference of nature environment between Kamikatsu and your home town?</li> <li>3. What did you find the difference of Trash disposal system between Kamikatsu and your home town?</li> </ul>
15:00-17:30	<b>Field trip 1 – Nature and traditional culture in Kamikatsu</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. Visiting the terraced rice fields and ancient Japanese house at Yaezi</li> </ul>

	B. Visiting the terraced rice fields and Japanese cedar  C. Tour in the hill (woodcarving-temple, riverside walking)  D. Peer learning for local cooking
18:00	Dinner
19:00	Cultural Exchange Event
20:00	Bathing time
22:00	Bedtime

## Day2: August 9<sup>th</sup>

06:00	Getting up, roll call, and breakfast
07:00	Breakfast
	<b>Field trip 2 - Local Internship experience in Kamikatsu</b>
	A. Irodori
	B. Tea harvesting
8:00-17:00	C. Forestation at Mt. Takamaru
	D. Bamboo crafts
	E. Food purchasing
	F. Cooking & Farm at Share Café
15:30~	Preparation for Barbeque Party
17:00-19:00	Barbeque Party
19:00-20:00	Cultural Exchange Event

20:00-22:00	Bathing time
22:00	Bedtime

**Day3: August 10<sup>th</sup>**

06:30	Getting up, roll call
07:00	Breakfast
07:30	Cleaning the school
08:20	Finish packaging & carrying the luggage
8:40-9:40	<p><b>Lecture 2</b></p> <p>1. "The Miracle of Irodori, To next stage of Kamikatsu" MASAHIRO ONISHI (Coordinator for community innovation)</p> <p>2. "Sustainable Eco-society -Local business using charcoal" KAZUHIRO WATANABE (Community Creator for charcoal business)</p>
9:50-11:20	<p><b>Group Discussion 2</b></p> <p>1 What is your impression of local business in Kamikatsu?</p> <p>2 Please explain some local business in your home town</p> <p>3 What is the major difference between local business and global business?</p>
11:20	Closing ceremony, return to the University of Tokushima



グループディスカッション（発表）



農作業体験インターンシップ（茶摘み）



流しソーメン



文化交流イベント

## 2.1.5 修了証書

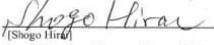
ダブリン・シティー大学とは学術交流協定があり、特別聴講学生として受け入れた。受講に対しての単位が認められたので、(1)の書式の履修証明書が発行された。その他の大学からの参加者はMOU（覚書）による参加であったため、(2)の書式の参加証明書が発行された。

FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA UNIVERSITY RECORD						No. 591
Name of Applicant: [REDACTED] Date of Birth: [REDACTED] Age: 19 Sex: Female Name of Institution: Faculty of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima Address of Institution: 1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502, Japan Period of Attendance: from June 2013 to August 2013 Degrees Received: Not applicable (special student) Grading System: A:Excellent B:Good C:Average P:Pass Q:Qualified						
Subject	Units	Grade mark	Subject	Units	Grade mark	
Global Communication I Castle Town of Tokushima in the Edo Era	2 2	A C				

Official Seal: 

Official Seal:  
FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES  
THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

Date: September 12, 2013

Signature:   
(Shogo Hirai)

Official Title: Dean of Faculty of Integrated Arts and Sciences,  
The University of Tokushima  
Address: 1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502, Japan

(1)履修証明書

No. 576



FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES  
THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502 Japan

5 September 2013

**CERTIFICATE OF COMPLETION**

TO WHOM IT MAY CONCERN:

Name: [REDACTED]

Date of Birth: [REDACTED]

Program: Summer School Programme 2013

Period: 18 June 2013 ~ 12 August 2013

<u>Course</u>	<u>Hours</u>
---------------	--------------

Lecture (Name of Professor)

- |  |        |
|--|--------|
| 1. Castle Town of Tokushima in the Edo Era<br>(Prof. Megumi Kuwabara)  | 8 hrs  |
| 2. Global Communication I (Associate Prof. Takahito Saito,<br>Associate Prof. Takanori Sato, Prof. Makoto Ohashi)  | 24 hrs |
| 3. Global Communication II (Associate Prof. Takahito Saito,<br>Associate Prof. Takanori Sato, Prof. Makoto Ohashi) | 6 hrs  |



Signature

*Shogo Hirai*  
[Shogo Hirai]

Official Title

Dean of Faculty of Integrated  
Arts and Sciences,  
The University of Tokushima

(2)参加証明書

---

### 2.1.6 アンケート集計結果

---

#### (1) 学習について

- ・日本の学生との会話を通じて日本語の学習（会話、読解、ライティング）ができた。
- ・日本文化と日本の歴史をホームステイを通じて学習できた。
- ・環境問題についての関心を持つことができた。
- ・授業での様々なテーマについての話し合いを通じて、多くの考え方や世界観を知ることができた。
- ・異文化に触れて、自分の文化を知ることができた。
- ・遍路の体験で、仲間と協力することの大切さを学んだ。
- ・授業では教科書等が用意されていないので、もっと情報があるとよかったです。
- ・語学力に差があるために、思うような議論ができなかった。

#### (2) プログラムについての自由記述

- ・このプログラムでは多くの日本人学生と会話する機会があった。
- ・多くのイベントと活動に参加する機会があるのはよいと思う。
- ・日本語と英語のピア学習、国際比較の授業とグループディスカッションなどが多く含まれていた。
- ・授業の議論として（ TPP のような）もっと複雑な話題があるとよかったです。
- ・長期間にわたる和室での合宿においてはプライバシーの確保、鍵の数確保等の点で配慮がほしかった。

## 2.1.7 成果報告

### (1) 実施体制について

昨年度から実施された総合科学部サマースクールはサマースクール実行委員会により運営されている。昨年は3名の委員で実施されたが、今年度は実施体制の充実を図るため委員を5名に拡大した。また内容の充実を図るために、実行委員には加わらないが、授業を担当する教員1名、あるいはエクスカーション内のレクチャーで話題を提供する教員2名の協力があった。より多くの教員が関わることが大切であろう。

### (2) 協定について

昨年は、サマースクールの学生が参加する授業を専用に用意できなかつたため、協定のある大学の学生も含め、授業を訪問する形での実施となった。本年度は、正規の授業を開講したため、協定のあるダブリン・シティー大学については、特別聴講生として在籍し、授業を履修することが今年度より可能となった。

### (3) 授業・エクスカーションについて

昨年度はサマースクールに参加した学生は、既存の授業のいくつかを訪問する形で実施した。本年度は3つの授業（全学共通教育の共創型学習）がサマースクールのために集中講義が開講され、日本人学生も受講できる体制が整い、「グローバル社会」「持続可能な社会」などのテーマについての議論を行うことが可能になった。

エクスカーションについては、授業におけるテーマについて体験を通して学ぶことができるよう、徳島の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習することができるよう配慮した2つのプログラム、「Pilgrimage Walking Experience, Fujii Dera to Shousannji」と「2013 International Student Conference in Kamikatsu」を準備した。「Pilgrimage Walking Experience, Fujii Dera to Shousannji」については、1日かけて遍路道を歩き、寺を巡る体験であった。自然観、宗教観の違いを体験するものであったが、教室とは異なる空間において長時間を共有することから学生間のコミュニケーションがより図られるものとなった。

「2013 International Student Conference in Kamikatsu」はSTSサマープログラムとの合同企画であった。この企画の実施のために、上勝町の様々な資源（彩、茶摘み、ゴミステーション、棚田、森林管理、シェアカフェ、竹細工、慈眼寺等）がプログラムに組み入れることが可能となった。学生にとっては、普段とは異なる学生間の交流が広がる点が最大のメリットである。また都会と地方の比較、ゴミ問題、地域の産業について

ワークショップが実施されたが、国・年代の異なる学生が議論することで内容の広がり及びコミュニケーション力の向上が図られた。これらのことから、今回、STS サマー プログラムと合同で企画することが有益であることが示されたといえる。

## 2.2 ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム

### 2.2.1 目的

本プログラムは、健康生命科学系統合大学院を構成する5教育部の、専門領域横断的に教育を行うヘルスバイオサイエンス学際教育英語プログラムの夏季集中講義として、授業科目「国際統合医療特論」を開講し、本学が特色とする生命科学学際領域の最先端の研究手法と最新の研究成果を教授するものである。さらに一般コースの学生にも履修の機会を提供し、単位の認定を行う。教育・研究の国際競争力を図り、留学生に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を育成する。さらに、大学院教育におけるFD活動としての教員の英語による講義能力の向上を通して、徳島大学の教育理念である「学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう、進取の気風を身に付けた人材の育成」を実現する。

### 2.2.2 日程

期 間：2013年8月2日（金）～8月9日（金）

参加人数：48名 [内訳…韓国海洋大学校1名、安東大学2名、モンゴル健康科学大学16名、南通大学6名、徳島大学23名]

日程：☆8月1日は到着日。事前に集合時間・場所は連絡済

1日目：8月1日（木）		
15:30-	徳島駅集合－ホテルチェックイン－オリエンテーション	
2日目：8月2日（金）		
8:40	バス停案内（蔵本キャンパスまで公共のバスで移動）	バス停新町
10:00-10:30	オリエンテーション	医学基礎B棟1F
10:30-11:00	開講式	基礎第一講義室
12:00	大塚製薬徳島本部 到着	大塚製薬 徳島本部
12:05-12:50	昼食	
13:00-13:50	大塚食品（オロナミンC、ポカリスエット工場）見学	大塚製薬（鳴門）

14:20-14:50	大塚輸液システムライブラリー 見学	大塚製薬（鳴門）
15:15-16:00	大塚製薬工場 輸液製造 見学	大塚製薬（松茂）
16:30	ホテル周辺バス停到着	バス停新町
3日目：8月3日（土）		
9:00	ホテル周辺バス停集合	バス停新町
9:40-11:10	渦潮見学	渦の道
12:00-14:00	昼食・買い物	ゆめタウン徳島
14:10-15:10	藍染体験	藍の館
16:00-17:00	阿波踊り見学・体験	阿波踊り会館
17:00-	ホテルまで引率→解散	
4日目：8月4日（日）		
	FREE DAY	
5日目：8月5日（月）		
8:50-10:20	講義① Protein Experiments I 福井 清教授（疾患酵素学研究センター）	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
10:30-12:00	講義② Protein Experiments II 頬田 和子助教（疾患酵素学研究センター）	
12:00-13:30	昼食	
13:30-15:00	講義③ Antibody Experiments in Biochemistry I 酒井 徹 教授（HBS・栄養生命科学教育部）	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
15:10-16:40	講義④ Antibody Experiments in Biochemistry II 山西 倫太郎 准教授（HBS・栄養生命科学教育部）	
6日目：8月6日（火）		
13:30-15:00	講義⑤ Gene Analysis Techniques I 福井 裕行 教授, 水口 博之 准教授 (HBS 薬科学教育部)	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
15:10-16:40	講義⑥ Gene Analysis Techniques II 伊藤 孝司 教授	
7日目：8月7日（水）		
8:50-10:20	講義⑦ Introduction to biomedical engineering 芥川 正武 講師	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
10:30-	ラボツアー	蔵本キャンパス
18:30-20:30	合同交流会	常三島 生協2F
20:30-	解散→ホテルまで徒歩または希望者はタクシー	

8日目：8月8日（木）		
10:30-12:00	講義⑧ Clinical Oncology & Bioimaging 近藤 和也 教授, 大塚 秀樹 教授 (HBS 保健科学教育部)	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
13:30-15:00	講義⑨ Gene Analysis Techniques III 高濱 洋介 教授, 峯岸 克行 教授 片桐 豊雅 教授 (疾患プロテオゲノム研究センター)	
15:10-16:40	講義⑩ Gene Analysis Techniques IV 親泊 政一 教授, 岡崎 拓 教授 (疾患プロテオゲノム研究センター)	
9日目：8月9日（金）		
8:50-10:20	講義⑪ Cell and Tissue Culture I 石丸 直澄 教授 (HBS 口腔科学教育部)	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
10:30-12:00	講義⑫ Cell and Tissue Culture II 泰江 章引 助教 (HBS 口腔科学教育部)	医学基礎B棟2F 基礎第二講義室
13:30-15:00	講義⑬ Morphological Methods for Medical Sciences I 坂下 直実 教授 (HBS 医科学教育部)	
15:10-16:40	講義⑭ Morphological Methods for Medical Sciences II 堀口 英久 准教授 (HBS 医科学教育部)	
10日目：8月10日（土）		
	離日	

### 2.2.3 講義概要

実施期間 2013年8月5日（月）～2013年8月9日（金）

場所 医学基礎B棟 基礎第二講義室

テーマ “Global Topics of Interdisciplinary Health Care”

講義内容

1. Cell and Tissue Culture
  - 1) From Basic to Clinic
  - 2) Application of cell culture experiments to oral Sciences
2. Protein Experiments
  - 1) Expression and Purification of Recombinant Proteins
  - 2) Characterization and Proteomics Analysis
  - 3) Crystallization and X-ray Crystallography
3. Antibody Experiments in Biochemistry
  - 1) Western blotting
  - 2) Immunoprecipitation experiment
  - 3) ELISA and RIA
4. Morphological methods for medical sciences
  - 1) Basic techniques for morphological researches
  - 2) Recent advances of morphological researches
5. Gene analysis techniques 1
  - 1) mRNA detection by Northern blotting and QRT-PCR/real-time PCR
  - 2) *in situ* hybridization
  - 3) Assessment of promoter region by luciferase assay and gel shift assay
  - 4) siRNA, its principle and protocol
6. Gene analysis techniques 2
  - 1) Genome analysis of autoimmune diseases
  - 2) SNP analysis for identifying disease susceptibility in human
  - 3) Gene expression profiling and cancer drug discovery
  - 4) Real-time monitoring of endoplasmic reticulum stress signaling
7. Clinical oncology and Bioimaging
  - 1) Gene analysis in oncology
  - 2) Bioimaging for health science
8. Interdisciplinary field of medicine and engineering

## 講師一覧

ヘルスバイオサイエンス研究部・医科学教育部	教授	坂下 直実
ヘルスバイオサイエンス研究部・医科学教育部	准教授	堀口 英久
疾患プロテオゲノム研究センター	教授	親泊 政一
疾患プロテオゲノム研究センター	教授	岡崎 拓
疾患プロテオゲノム研究センター	教授	高濱 洋介
疾患プロテオゲノム研究センター	教授	峯岸 克行
疾患プロテオゲノム研究センター	教授	片桐 豊雅
ヘルスバイオサイエンス研究部・栄養生命科学教育部	教授	酒井 徹
ヘルスバイオサイエンス研究部・栄養生命科学教育部	准教授	山西 倫太郎
ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部	教授	福井 裕行
ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部	教授	伊藤 考司
ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部	准教授	水口 博之
ヘルスバイオサイエンス研究部・口腔科学教育部	教授	石丸 直澄
ヘルスバイオサイエンス研究部・口腔科学教育部	助教授	泰江 章博
ソシオテクノサイエンス研究部	講師	芥川 正武
ヘルスバイオサイエンス研究部・保健科学教育部	教授	近藤 和也
ヘルスバイオサイエンス研究部・保健科学教育部	教授	大塚 秀樹
疾患酵素学研究センター	教授	福井 清
疾患酵素学研究センター	助教	頼田 和子



開講式集合写真



大塚製薬工場にて

## 2.2.4 エクスカーション

日時：2013年8月3日（土） 9:00~17:30

◆ 涡潮見学 9:40~11:00 徳島県立 涡の道



美しい景色と鳴門の渦のダイナミックさに驚き、感動していました。

観潮船に乗り、渦を間近で見て、テンションも最高潮でした。

◆ 藍染体験 14:10~15:10 藍住町歴史館 藍の館

スタッフの方が丁寧に身振り手振りで教えてくれることに、熱心に耳を傾けていました。

個性豊かな藍染が完成しました！



◆ 阿波踊り見学・体験 14:50~16:00 阿波おどり会館



「やっとさー。やっとやっと」の掛け声に合わせて、笑顔で踊りました。

モンゴル健康科学大学の学生さんが優秀賞を受賞しました。

# The University of Tokushima



THIS IS TO CERTIFY THAT

has completed  
the course program  
of  
Health Bioscience Course

“SUMMER PROGRAM 2013”

2st August – 9th August, 2013

*S. Kagawa*

Susumu KAGAWA, M.D., Ph.D.  
President  
The University of Tokushima,  
JAPAN

*Hideo Araki*

Hideo ARAKI, Ph.D.  
Chairman  
Summer Program Organizing Committee  
The University of Tokushima,  
JAPAN

## 2.2.6 アンケート集計結果

### PROGRAM QUESTIONNAIRE

This is a questionnaire to all students and supervisors who attend the “UT Summer Program 2013.” Please answer each item below.

1) Please give us information of yourself (Please circle)

2) 19名のみ回答 (12名未提出)

1. Master Course Graduate Student (13名) 6. Assistant Professor

2. Doctoral Course Graduate Student (5名) 7. Associate Professor

3. Laboratory Technician (1名) 8. Professor

4. Scientist/Teaching Staff 9. Others

5. Lecturer (Please specify: )

2) Please tell us your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

・モンゴル健康科学大学

Public Health (1名) Pharmacology (1名) Biochemical and laboratory (2名)  
Biology and fist logical (1名) Pathology (1名) Medical Doctor (2名) Education  
(1名) Preventer nutrition (1名)

・安東大学

Biological Science (1名)

・韓国海洋大学

Machinery Material(1名)

・南通大学

The key laboratory of Regeneration (1名) Neurosurgery (1名) Cardiovascular (1名)

・徳島大学

Enzyme Research (1名) Preventive Environment and nutrition (1名)

※2名未記入

3) Please tell us your field of study (in detail) (cf. Biochemistry, Immunology, etc)

上記に同じ

4) Was the program, from the academic point of view, satisfactory for you? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5 (11名)	4 (8名)	3	2	1

5) Please tell us what should be improved if you marked 1-3 in Item 4 above?

- ・講義をする先生方数名に水がなかった。
- ・徳大の学生と交流する活動がほしい。
- ・学校とホテルを往復する費用（往復一日400円×10日間）を事前に言ってほしかった。

6) Was accommodation satisfactory for you? Please write comments.

- ・部屋は毎日とても綺麗に掃除されていた。
- ・エアコンも完備されていてよかったです。
- ・Wi-Fi の接続もよかったです。
- ・快適だった。
- ・和室に泊まれて新しい経験となった。
- ・ホテルのスタッフはとても親切で、サービスもよかったです。

7) Was this Japanese Culture Experience Program satisfactory for you? Please write your comments.

#### AI-NO-YAKATA (Indigo Dying Experience Space)

- ・体験型でとてもいい経験となった。
- ・匂いが多少気になったが、とても楽しいひと時でした。
- ・自分が好きなデザインを選べることが嬉しかった。
- ・日本の文化を学ぶいい経験となった。

#### UZU-NO-MICHI (Whirlpool in Naruto)

- ・ボートに乗ってとても楽しかった。
- ・美しい景色も楽しむことができた。

#### AWA-ODORI-KAIKAN (Awa Dance)

- ・阿波踊りをしている人の強い情熱を感じた。
- ・音楽もとても興味深かった。

・意味がよく分からなかった。

- 8) Do you recommend your juniors to attend our “Summer Program 2014”, if we hold it next year? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5 (13名)	4 (3名)	3 (2名)	2	1

※ (未回答1名)

- 9) After attending the program, do you think you will apply for our PhD program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5 (10名)	4 (6名)	3 (1名)	2	1

Thank you very much for your cooperation!!

## **PROGRAM QUESTIONNAIRE**

This is a questionnaire to all students and supervisors who attend the "UT Summer Program 2013." Please answer each item below.

1) Please give us information of yourself (Please circle)

- |                                     |                        |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1. Master Course Graduate Student   | 6. Assistant Professor |
| 2. Doctoral Course Graduate Student | 7. Associate Professor |
| 3. Laboratory Technician            | 8. Professor           |
| 4. Scientist/Teaching Staff         | 9. Others              |
| 5. Lecturer                         | (Please<br>specify: )  |

2) Please tell us your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

3) Please tell us your field of study (in detail) (cf. Biochemistry, Immunology, etc)

4) Was the program, from the academic point of view, satisfactory for you? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

5) Please tell us what should be improved if you marked 1-3 in Item 4 above?


6) Was accommodation satisfactory for you? Please write comments.


*Please answer questions on the back page.*

7) Was this Japanese Culture Experience Program satisfactory for you? Please write your comments.

AI-NO-YAKATA (Indigo Dying Experience Space)


UZU-NO-MICHI (Whirlpool in Naruto)


AWA-ODORI-KAIKAN (Awa Dance)


8) Do you recommend your juniors to attend our “Summer Program 2013”, if we hold it next year? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

9) After attending the program, do you think you will apply for our PhD program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

Thank you very much for your cooperation!!

## 2.2.7 成果報告

- ・ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院を構成する5教育部の専門領域横断的かつ学際領域を包含する研究内容について、最先端の研究手法と最新の研究成果を教授する講義と研究室見学実習を実施して、留学生に魅力的な教育プログラムを提供することが出来た。
- ・海外の留学生に対して、「アーリーエクスポージャー」として本プログラムを実施することにより、本学への優秀な正規留学生の入学増加が期待された。
- ・本プログラム授業科目のE-learning化を行い、参加学生にはプログラム終了後も学習内容の完全な理解に到達できる学習環境を提供し、その学習支援を行っていることから、海外交流協定校から単位認定の要望があり、今後単位互換制度の整備に向けた検討を開始することとしている。
- ・海外の学術交流協定校からなる国際的大学間ネットワークが形成され、これらの大学等との教育連携が推進された。とくに本年度は、疾患酵素学研究センターと学術交流協定を締結している中国南通大学 The Key Laboratory of Neurodegeneration 所属の研究者を含む南通大学の一一行7名が、サマープログラム実施期間中の8月8日に同センターを訪問し、世界屈指のプロテオミクス・メタボロミクス解析システムを中心として施設見学を行うとともに、今後の学術交流についての協議を行った。

## 2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

### 2.3.1 目的

本サマースクールは、（1）海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、（2）徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また（3）日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながすことの目的として実施した。

### 2.3.2 日程

期 間：2013年8月5日（月）～8月9日（金）

参加人数：110名

（海外参加者：40名、日本人学生・一般：40名、本学留学生：30名）

【中国】 9名

- |           |    |
|-----------|----|
| ・北京航空航天大学 | 3名 |
| ・大連理工大学   | 4名 |
| ・吉林大学     | 2名 |

【韓国】 6名

- |          |    |
|----------|----|
| ・韓国海洋大学校 | 6名 |
|----------|----|

【インドネシア】 14名

- |                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| ・ガジャマダ大学                          | 6名 |
| ・ハントゥアーレ大学                        | 4名 |
| ・Health College of STIKES AISYIAH | 4名 |

【台湾】 11名

- |             |    |
|-------------|----|
| ・国立台湾嘉義大学   | 3名 |
| ・逢甲大学       | 4名 |
| ・国立屏東商業技術学院 | 4名 |

1日目：8月4日（日）		
15:30-	徳島駅集合&ホテル・しんくら会館チェックイン	
2日目：8月5日（月）		
10:30-11:00	開講式	
11:00-11:50	オリエンテーション	
11:55-12:50	昼食	日亜会館 2F 国際センター講義室
13:30-14:20	徳島観光紹介（徳島県観光戦略課）	
14:30-15:20	日本留学・徳大留学の説明	
15:30-16:00	常三島キャンパスに移動	日亜→常三島
16:00-19:00	徳島紹介&徳島大学留学生との交流	常三島 5-302, 303
3日目：8月6日（火）		
10:00-11:40	徳島大学&学部・大学院説明	日亜会館 2F
11:40-13:00	昼食	
13:30-16:00	研究室訪問	常三島・蔵本
4日目：8月7日（水）		
10:00-11:50	日本文化体験（茶道・邦楽）	日亜会館 2F しんくら会館
11:50-13:00	昼食	
13:00-17:30	日本人学生と行うピア・ラーニング	ひょうたん島クルーズ 徳島県庁
18:30-20:30	合同交流会	生協食堂 2F
5日目：8月8日（木）		
10:20-11:50	徳島文化体験：渦の道	渦の道
12:05-13:30	昼食	パワーシティ鳴門
14:10-15:30	徳島文化体験：藍染体験	藍の館
16:00-17:30	徳島文化体験：ショッピング体験	夢タウン
18:00-18:30	徳島文化体験：眉山見学	眉山
6日目：8月9日（金）		
9:00-10:30	企業見学	大塚製薬（川内町）
10:40-12:00	昼食	食堂

13:00-14:20	意見交換会	日亜会館 2F
14:30-15:00	修了式	
15:00-16:00	鳴門阿波踊り	鳴門市内
7日目：8月10日（月）		
ホテル・しんくら会館チェックアウト→帰国		

※韓国からの参加者1名の到着が遅れ、徳大留学生との交流からの参加となった。

### 2.3.3 講義概要

実施期間 2013年8月5日（月）～2013年8月9日（金）

場所 日亜会館 2F 国際センター講義室他（日程参照）

講師一覧

国際センター	教授	金成海
国際センター	教授	大石寧子
国際センター	教授	Gehrtz 三隅友子
国際センター	准教授	坂田浩
国際センター	准教授	橋本智



開講式



日本人学生と行うピア・ラーニング  
(ひょうたん島クルーズ体験)



日本人学生と行うピア・ラーニング  
(県庁訪問)



研究室訪問

### 2.3.4 エクスカーション

日時：2013年8月8日（木）

○藍染体験 13:30~15:30



○眉山登頂 17:10~18:30



日時：2013年8月9日（金）

○大塚食品株式会社 徳島工場 訪問 9:00~13:00



トマトホール



杉の彫刻



オロナミンC

2.3.5 修了証書

The University of Tokushima



THIS IS TO CERTIFY THAT

has completed  
the program  
of  
International Summer School  
in Tokushima (ISST), 2013;  
“Get together” at the University of Tokushima  
5th August – 9th August, 2013

*S. Kagawa*

Susumu KAGAWA, M.D., Ph.D.  
President  
The University of Tokushima,  
JAPAN

*Yoshihisa Takaishi*

Yoshihisa TAKAISHI, Ph.D.  
Vice President  
Executive Director for Education and  
Student Affairs  
Director of International Center  
The University of Tokushima, JAPAN

### 2.3.6 アンケート集計結果

#### プログラムのアンケート

これは”国際センターサマースクール 2013“に参加するすべての学生を対象に行うアンケートです。以下のそれぞれの質問に答えてください。

プログラムの質問にすべて答えて下さい。

(1) 所属を書いて下さい。

(名前・学部・学科・大学名・国名も書いて下さい。)

##### 【大学別】

インドネシア (14 名)

ガジャマダ大学	6 名
ハントゥア大学	4 名
Health College of Sticks Aisyiyha Yogyakarta	4 名

台湾 (11 名)

逢甲大学	4 名
台湾屏東商業技術学院	4 名
国立嘉義大学	3 名

中国 (8 名)

大連理工大学	4 名
北京航空航天大学	3 名
吉林大学	1 名 (1 名未提出)

韓国 (6 名)

韓国海洋大学	6 名
--------	-----

計 39 名 (1 名未提出)

##### 【学部別】

歯学部	10 名	工学部	9 名
応用日本語学部	4 名	看護学部	3 名
歴史地理学部	3 名	英語・英文学	2 名
法律	2 名	理学療法	1 名
沿岸警備	1 名	情報科学部	1 名
コンピューター科学技術	1 名		

土地管理

1名

財務

1名

(2) このプログラムはあなたの勉強により影響を与えたか。

とても	-----	まあまあ	-----	あまり
37名 (95%)	2名 (5%)			

(3) 次の活動を通して何を学びましたか。

- 日本・徳大留学紹介（1日目）

- ・ 徳島大学の奨学金の制度が理解できた。
- ・ 入学する際の申請方法が分かった。
- ・ 徳島大学に入学する為の準備方法が分かった。
- ・ もっと日本で長い期間勉強したいと思った。
- ・ 滞在の期間中の費用がどれくらい必要か学ぶことができた。
- ・ 日本で留学する条件や事情を知ることができた。
- ・ 徳島大学の基本的な情報を知ることができた。
- ・ トイレの使い方を知れてよかったです。

- 徳大留学生との交流（1日目）

- ・ 同じ出身国の留学生と話すことで、より詳しく徳島での留学生活を知ることができた。
- ・ 徳島周辺のレストランなどを丁寧に教えてくれた。
- ・ プログラム外でも食事に行き交流ができて楽しかった。
- ・ 徳島大学の学生はとても友好的で親切だった。
- ・ 留学生が滞在中の生活の話をしてくれた。
- ・ 勉強のことだけではなく、食事や文化などたくさんの話を聞けた。
- ・ 留学生がおすすめの店を教えてくれた。

- 研究室訪問（2日目）

- ・ 小グループだったので、担当の先生とたくさん話ができるよかったです。
- ・ 将来何をすればいいか見つめ直すいい機会になった。
- ・ 自分の国よりはるかに進んでいて、とても驚いて感激した。

## - 日本文化体験

### (1) : 茶道体験 (3日目)

- ・ 貴重な経験だった。お茶、お茶菓子がおいしかった。
- ・ 日本の文化やマナーを学べた。自分の国にはない初めての体験だった。
- ・ 作る過程が楽しかった。お茶を飲むとリラックスできた。
- ・ 足が痛かった。お茶はあまり口に合わなかつたが、茶道は楽しかつた。
- ・ 少し苦かった。先生が優しかつた。お茶が熱すぎた。
- ・ 少し難しかつたが、とても楽しかつた。
- ・ 日本の文化を知るために、すごく良いことだと思う。
- ・ よく見えなかつた。真ん中でレクチャーするべきだと思う。
- ・ 作り方が印象的だった。
- ・ 遠くて聞きとりづらかつた。
- ・ 部屋が暑かつた。
- ・ もっと本格的に教えて欲しかつた。
- ・ 英語を使って、もっと少人数のグループの方が良い。
- ・ 通訳の人を増やしたほうがいい。
- ・ お茶が好きになつた。
- ・ 茶碗が気に入つた。

### (2) : 邦楽体験

- ・ すごく頭が爽快な気分になつた。
- ・ 三味線も見れて良かった。独特な音調だった。
- ・ おもしろかつた。緩やかな時を味わえた。少し眠かつた。
- ・ リラックスできた。もう1回聞きたい。
- ・ 特別な体験ができた。
- ・ 尺八と三味線の演奏を初めて見た。素晴らしい。
- ・ 美しく、繊細な音色だった。

## - 日本人学生と行うピア・ラーニング (クルージング、県庁訪問、市街散策)

### (3日目)

#### 〈日本人サポーター〉

- ・ 通常の国際交流サロンと比べて、お互いのことについて深い内容を知ることができた。(自分の家族、大学での専攻、趣味などについて)
- ・ 外国と日本の違いを直接外国の方から聞けた。
- ・ 実際に徳島を歩きながらボートに乗ったり県庁にいったりして実体験ができ

たので留学生にとってもサポーターにとってもいい体験になった。

- ・ お話ししながら歩けたのもよかったです。中国や韓国、台湾でもワンピースが1番人気だそうだ。
- ・ 食事会のときに聞いてみるとボートがすごく楽しかったと言っていた。
- ・ 同世代の他国の人と話せたことで、自分のしたい事へのモチベーションをあげることが出来たり、英語ももっと話せるように努力しようと考えたり出来た。
- ・ 活動の班内の自己紹介の時間を少し長くできればいいと思った。また、ボートを降りた後、何人かの学生が、サマースクールのTシャツの着替えに長い時間かかっていたため、観光のための時間がなかった。
- ・ 普段なかなか会う機会が少ないイスラムの方とお話しでき、とても異文化を感じられることができたので、とてもよかったです。県庁の見学もまた貴重でしたので、大変有意義なものになった。

#### 〈参加留学生〉

- ・ 暑かったけど、クルージングは最高だった。
- ・ 県庁内の案内はとても詳しく、特別な経験になった。
- ・ 徳大の学生は英語が不慣れな学生もいたが、親切で、距離がぐっと縮まった。
- ・ ボートが暑く、辛かった。
- ・ 疲労、暑さ、時間の関係で徳島を自由に散策できなかつたのが残念だった
- ・ スケジュールがとても詰めこまれていたので、少し大変だった。あまり徳島探検もできなかつたので、休憩していた教室でパワーポイントを使って何か徳島や日本を紹介できたらよかつたかなあと思った。

#### - 徳島文化体験（鳴門、藍の館、夢タウン）（4日目）

- ・ 次機会があつたら船にも乗ってみたい。
- ・ 写真を撮るには抜群の場所。絶景！
- ・ 藍染めはとても美しく、素晴らしい体験になつた。
- ・ 藍染め体験を通して、地球や自然に感謝の心を持つた。
- ・ 夢タウンでたくさんお土産を買つてよかつた。
- ・ ショッピングの時間が少し短かつた。値段が高いので少ししか買えなかつた。
- ・ 夢タウンよりももっと伝統的なショッピングスポットがよい。

(4) このプログラム期間中、徳島の人々と交流することで最も学んだことは何ですか。

- ・ 誰にでも親切であること。他人へ思いやりの心を持つこと。
- ・ 「ありがとう」と感謝の気持ちを示し、他の人に尊敬の念を持つこと。

- ・ 文化、習慣などそれ以上のものを得た。
- ・ 英語が通じにくかったので、日本語を習得したい。
- ・ 文化の違いに向き合い、違いを楽しむこと。
- ・ コミュニケーションをとると、世界中の友達ができること。

(5) サマープログラムで最も学んだことは何ですか。

- ・ 各国の文化や習慣を受入れ、関わりを持つこと。
- ・ 徳島大学のスタッフはとても親切である。
- ・ 英語力を高めること。
- ・ 徳島大学の入学の方法。

(6) このプログラムで改善すべき点は何ですか。

- ・ 日程が詰め込まれすぎているので、時間に余裕が欲しい。休み時間の確保など。
- ・ 5日間より長いプログラムにするといい。
- ・ お盆の期間中にプログラムを組んでほしい。
- ・ Wi-Fi を使える場所を増やしてほしい。
- ・ homestay をしてみたい。
- ・ イスラム教徒のお祈りの場所の確保。
- ・ イスラム教徒が安心して食事ができるように、豚肉×などラベルが欲しい。
- ・ ホテルの場所が、学校ともう少し距離が近いところがよい。

(7) もし来年も国際センターのサマープログラムが開催されるならば、大学の後輩に勧めますか。

絶対薦める	-----	たぶん	-----	絶対薦めない
35名 (90%)	4名 (10%)			

(8) あなたは将来交換留学をするつもりはありますか。また後輩に勧めますか。

絶対薦める	-----	たぶん	-----	絶対薦めない
29名 (74%)	7名 (18%)	3名 (8%)		

# **PROGRAM QUESTIONNAIRE**

## **For International Summer School, 2013**

*Please answer ALL items in this program questionnaire.*

- 1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- 2) Did this program have a positive impact for your study? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

- 3) What did you learn through the following activities:

- Lecture on Study Abroad in Japan/UT (Day 1)

- Interaction with UT International Students (Day 1)


- Introduction about UT & Laboratory Tour (Day 2)


- Tea Ceremony & Japanese Traditional Musical Instruments (Day 3)


- Peer-learning about Tokushima with Japanese Students through Boat Cruising,  
Visitation to Prefectural Government Office & City Walking (Day 3)


- Tokushima Tour in Naruto, Indigo Dying Practice and Shopping at You Me Town  
(Day 4)


4) What do you think you learned the most through interactions with Tokushima people and students during this program?


5) What do you think you learned the most through this summer school?


6) Please tell us what should be improved in this program.


7) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year?  
(Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

8) Do you think you will apply for our exchange program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5	4	3	2	1

Thank you very much for your cooperation!!

### 2.3.7 成果報告

2013年8月5日（月）～8月9日（金）まで、国際センター主催の下、サマースクール「徳島であおう」を開催した。このサマースクールは、国際センターとして二回目の取り組みであり、4カ国（中国、インドネシア、台湾、韓国）からの学部学生40名、本学に在籍する日本人学生・留学生、地域住民70名の合計110名が参加する、非常に国際色豊かなプログラムとなった。

#### 【本サマースクールの趣旨・特徴】

今回のサマースクールを実施するにあたり、まず（1）本サマースクールに参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうことを第一義的な目的とし、その目的に向けて（2）徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう、また（3）「徳島であおう」というタイトルが意味するように、日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながす、という方針で全体のプランニングを行った。工学部ならびに医歯薬系のサマープログラムは、どちらかと言えば「大学院博士課程」に入学する学生をリクルートするために実施しているが、本サマースクールは将来本学修士課程に入学する留学生（ならびに交換留学生として本学で短期間学ぶ学部学生）をターゲットとしており、まずは「本サマースクールに参加した学生が、4-5年後、博士課程に入学する」ことを想定し、プログラムの企画を行った。

本プログラムの特徴的な点としては、（1）研究室訪問に代表される徳島大学におけるアカデミックな活動についての情報を提供した、（2）阿波踊りや合同交流会、日本文化体験活動などに代表される文化面での学びを提供した、（3）日本人学生・地域住民との関わりを通じて、徳島・徳島大学への理解を深めることを行った、（4）本プログラムで得た知識や経験を自らのものとするための内省化を行った、という4点を挙げることができる。

#### （1）徳島大学におけるアカデミックな活動についての情報の提供

「徳島大学におけるアカデミックな活動についての情報の提供」に関しては、常三島地区、蔵本地区教員による「徳島大学紹介」、各地区での「研究室訪問」や「徳島大学紹介」を中心に内容を企画・立案した。本プログラムに参加する学生の専門分野は多岐にわたるものであり、歯学・工学・芸術・日本語学・経済学など実に様々な分野について興味・感心を持っている学生が参加していたことから、今回は、

- ・ 各キャンパス（常三島地区は総合科学部と工学部、蔵本地区は歯学部）から教員を派遣してもらい、所属する部局の教育（主に学部・修士課程）についてレクチャーをしてもらう
- ・ そこでの情報を基に「研究室訪問」に参加し、専門に関するより深い学びを提供する

という形で活動を展開した。

参加者にとっては、現在進行している最先端の研究を直接見聞することができただけなく、各部局で進行しているユニークな研究や教育活動について知ることができた点でも大きな刺激となったと考える。参加者が将来本学で再度学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報、「誰の下で学ぶことができるのか」といった指導教員に関する情報は非常に重要であり、今回の「徳島大学紹介」、「研究室訪問」ではこれらの情報を具体的に提供することができたと考える。

### (2) 徳島・日本の学びの提供

今回のプログラムでは、昨年度に引き続きJSS（徳島大学の留学生と地域住民を結ぶ「国際交流サロン」を定期的に企画・運営する共催ボランティア団体）による茶道や邦楽を聞く体験、藍染め、大塚製薬の工場見学など、徳島の伝統と現在を学ぶ活動を行った。また今年度は鳴門市の阿波踊りを見学し、徳島ならではの伝統芸能に触れる機会もあり、参加者には非常に好評だった。

今年度初めて、同時に開催されている他部局のサマープログラムとの合同交流会を開催した。他のサマープログラムの参加者や日本人学生、地域住民、大学教員・職員と交流し、また韓国、モンゴル、インドネシアの学生が自国の歌や踊りを披露する機会ともなり、参加者は徳島で日本だけでなく多様な文化に触れることができた。

### (3) 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化

昨年同様、今年度も国際センターに登録している学生サポーターに呼び掛け、参加者とともに学ぶピア・ラーニングを行った。今回は参加者を小グループに分けそれぞれに日本人学生を配置し、ひょうたん島クルーズ、徳島の街散策、県庁・県議会見学、副知事と副議長との面談といった活動をともに行った。大学外での活動を一緒に行うことで、同じ年齢の学生たちが意見交換を行い、参加者は日本人を、日本人学生は異なる言語や文化を背景に持つ参加者を身近に知る機会となり、参加者・日本人学生双方に対する国際理解教育が行えたと考える。

日本人サポーターに対する事後のアンケートからは、自分の住む徳島や日本のことがうまく説明できず残念だったという意見もあった。このようなプログラムを企画・実施することで、外になかなか目の向かない日本人学生が多文化の人と接して自分たちの文化や言葉を見つめなおし、それを学んでいこうという動機づけを得るものとなった。日本人学生が日本の外に目を向け、国際交流・国際理解の第一歩を踏み出すことができたと考えている。

徳島大学に在学している外国人留学生との交流を行う時間を設けることで、参加者がより徳島に親しみを感じ、将来の徳島大学への留学を現実のものとみることができたのではないかと思われる。

茶道体験などいくつかの活動にはJSSをはじめ、地域住民にも参加してもらい、参加者がより多彩な日本人との交流を行う機会を設けることができた。また、異文化・多言語の大勢の外国人学生に接することで、地域住民の外国人に対する理解が進んだと考えられる。

#### (4) 本プログラムで得た知識や経験を自らのものとするための内省化活動

ともすれば、1週間の文化体験短期プログラムは観光や遊びと捉えられがちかもしれないが、今回のサマースクールでは各種文化体験や交流活動で得た経験を「学び」として昇華するために、「意見交換会」における体験の内省を実施した。昨年度は、別途実施した「異文化ワークショップ」と関連させながら活動を実施したが、今回は少し簡素化した形で内省化活動を実施してみた。

「意見交換会」では、各個人が体験した「日本&徳島」について、

- ・ グループのメンバーと意見交換を行い、自分達が学んだことをグループ毎に一つの絵として表現してもらう。
- ・ その絵を基に「自分達の日本・徳島」をクラス全員に発表してもらい、意見交換を行う。

といった活動を行い、自らの主観的文化体験を客観的に俯瞰する機会を提供することができたと考える。

## 2.4 ソシオテクノサイエンスコース

---

### 2.4.1 目的

夏休み期間中に先端技術科学教育部・工学部が開講しているサマースクールは年を追うごとに参加者も増加し、平成24年度では120名を超える受講生、うち海外から63名の外国人学生を迎える、ナノテクノロジーコースおよび電子・情報工学コースの専門的な内容を学内・学外の講師により英語で提供してきた。一部藍染め体験などカルチャープログラムなども取り入れていたが、本学先端技術科学教育部で力を入れている環境・エネルギーを更に意識できるプログラムを模索してきた。

徳島県上勝町は大学から車で1時間程度の過疎化と高齢化が進む町ながら、全国でも有数の地域活性型農工商連携のモデルとなっている町もある。特に、日本料理を仏区しく彩る季節の葉や花などを販売するベンチャービジネスである「葉っぱビジネス」を創業し、通常はゴミとして廃棄している物資を資産として活用する、究極の環境・エネルギーを意識した社会を実践している町である。

本取組では、8月5日よりサマースクールを開講し、これら上勝町で行われているベンチャービジネスに関するインターンシップを組み込み、徳島大学常三島地区の学生および外国人学生に、座学だけではない環境・エネルギーを意識したサマースクールプログラムを提供すること、徳島の中の日本らしさをベンチャービジネスの観点から体験・理解させることを目的とする。

### 2.4.2 日程

期 間：2013年8月5日（月）～8月11日（日）

参加人数：89名 [内訳…North Maharashtra University 3名、Bharati Vidyapeeth Deemed University Pune 1名、National Taiwan University of Science and Technology 6名、Xi'an Jiaotong University 14名、Tongji University 1名、Korea Maritime University 2名、Pusan National University 2名、University of Auckland 1名、The University of Tokushima 59名]

## 全コース日程

### (i) **Opening Ceremony**

Date and Time: Monday, August 5, 9:30 a.m. 9:40 a.m.

Place: Memorial Hall, Second Floor, Alumni Building, Josanjima campus.

#### **Opening Remarks:**

1. Prof. Junichiro Fukutomi (Dean of Engineering, The University of Tokushima, Japan)
2. Prof. Ri-ichi Murakami (Vice-Director, CICEE, The University of Tokushima, Japan)

### (ii) **Common Lectures**

#### **1. Common Lecture 1**

Date and Time: Monday, August 5, 9:40-10:20.

Place: Memorial Hall, Second Floor, Alumni Building, Josanjima campus

Speaker: **Dr. Pankaj Koinkar** (The University of Tokushima)

Title: Introduction of Summer School Program

#### **2. Common Lecture 2**

Date and Time: Monday, August 5, 10:30-11:20.

Place: Memorial Hall, Second Floor, Alumni Building, Josanjima campus

Speaker: **Dr. Michihiro Nakamura** (The University of Tokushima)

Title: Novel organosilica nanoparticles and applications for biomedical imaging.

#### **3. Common Lecture 3**

Date and Time: Tuesday, August 6, 09:30-10:20.

Place: Memorial Hall, Second Floor, Alumni Building, Josanjima campus

Speaker: **Dr. Jun Zaki** (The University of Tokushima)

Title: A glance in "The Cross-Cultural Communication Skills".

#### **4. Common Lecture 4**

Date and Time: Wednesday August 7, 9:30-10:20.

Place: Memorial Hall, Second Floor, Alumni Building, Josanjima campus

Speaker: **Mr. Hiroshi Sakata** (The University of Tokushima)

Title: Japanese way of Communication.

#### **(iii) Intercultural meeting**

Date and Time: Wednesday, August 7, 18:30-20:30

Place: University Cafeteria, Josanjima campus

Date and Time: Thursday, August 8, 7:45

#### **(iv) Field Trip**

Duration: August 8-10

Meeting Place: In front of the Electrical and Electronic Engineering building

#### **Day 1: Field trip 1 - Japanese cultural experience**

Schedule:

8:00	Departure from The University of Tokushima
9:30	Arrival at Mountain school, Kamikatsu town
10:00	Lectures:  i. Giant trees, Sacred Trees Dr. Masaya Satoh, The University of Tokushima  ii. Floral characteristics in temperate region Shikoku condensed plant diversity

	Dr. Takashi Yamahiro, The University of Tokushima
12:00	Lunch
13:00	Group Discussion
15:30	Field trip 1: Nature and Culture in Kamikatsu
17:30	Arrival at Mountain school
19:00	Cross Cultural meeting

### **Day 2: Field trip 2 - Internship and Business experience**

Schedule:

8:00	Departure from Mountain school.
	Irodori leaf Internship, Tea harvesting, Forestation, Bamboo Craft, Farming
12:30	Lunch
16:00	Arrival at Mountain school
19:00	Cross Cultural meeting

### **Day 3: Orientation on small business Venture**

Schedule:

8:40	Lecture on small business venture and charcoal business <ul style="list-style-type: none"> <li>i. The Miracle of Irodori to next stage of Kamikatsu Mr. Masahiro Onishi , Coordinator for Community innovation</li> <li>ii. Sustainable Eco-society -Local business using charcoal</li> </ul>
------	---

	Mr. Kazuhiro Watanabe, Community Creator for charcoal business
9:40	Group Discussion
11:20	Closing ceremony
11:30	Departure for The University of Tokushima

**(v) Closing Ceremony**

Date and Time: Saturday, August 10, 11:20-11:30

Place: Mountain School, Kamikatsu Tow

**Closing remarks:**

1. Prof. Ri-ichi Murakami (Vice-Director, CICEE, The University of Tokushima, Japan)
2. Prof. Toshihiro Moriga (Vice-Director, CICEE, The University of Tokushima, Japan)

**コース別日程**

**Nanotechnology and Materials Science Course**

Place: Memorial Hall (Alumni Building, 2<sup>nd</sup> Floor)

1日目：8月5日（月）	
9:30~9:40	Opening Ceremony
9:40~10:20	Common Lecture 1 (Koinkar)
10:30~11:20	Common Lecture 2 (Nakamura)
11:30~12:20	Lecture 1 (Okada)  Electron backscatter diffraction (EBSD)

13:30~14:20	Lecture 2 (Hashimoto)  Optical properties of plasmonic gold nanoparticles
14:30~15:20	Lecture 3 (Yonekura)  Surface analysis and characterization methods
15:30~16:20	Lecture 4 (Deguchi)  Industrial applications of laser diagnostics
2 日目：8 月 6 日（火）	
9:30~10:20	Common Lecture 3 (Zaki)
10:30~11:20	Lecture 5 (Kim)  Composite materials and its application
11:30~12:20	Lecture 6 (Sugiyama)  Introduction to metallic solid-catalysts and the application to the production of the precursor of MMA
13:30~14:20	Lecture 7 (Moriga)  Cation substitution effects on luminescent property in the oxynitride phosphor for white LEDs
14:30~15:20	Lecture 8 (Ute)  Polymers in daily life
15:30~16:20	Lecture 9 (Yasuzawa)  Preparation of functional surface
3 日目：8 月 7 日（水）	

9:30~10:20	Common Lecture 4 (Sakata)
10:30~11:20	Lecture 10 (Nakagaito)  From ordinary paper to cellulose-based bionanocomposites
11:30~12:20	Lecture 11 (Yabutani)  Basics of inductively coupled plasma spectroscopy (ICP-MS and ICP-OES)
13:30~14:20	Laboratory Visit I
14:30~15:20	Laboratory Visit II
15:30~16:20	Laboratory Visit III
18:30~20:30	Intercultural Party

### **Electrical Engineering and Information Science**

Place: Seminar Hall (Alumni Building, 1<sup>st</sup> Floor)

1 日目：8月5日（月）	
9:30~9:40	Opening Ceremony
9:40~10:20	Common Lecture 1 (Koinkar)
10:30~11:20	Common Lecture 2 (Nakamura)
11:30~12:20	Lecture 1 (Yasuno)  Intelligent systems and control
13:30~14:20	Lecture 2 (Yasuno)  Intelligent systems and control
14:30~15:20	Lecture 3 (Tomita)

	Optical processes in semiconductors and its application
15:30~16:20	Lecture 4 (Ogata)  Collaboration, ubiquitous and social technologies
2 日目 : 8 月 6 日 (火)	
9:30~10:20	Common Lecture 3 (Zaki)
10:30~11:20	Lecture 5 (Ao)  Introduction of semiconductor devices
11:30~12:20	Lecture 6 (Ao)  Introduction of semiconductor devices
13:30~14:20	Lecture 7 (Karangaru)  Introduction to biometrics
14:30~15:20	Laboratory Visit I (Karungaru)
15:30~16:20	Laboratory Visit II (Yasuno)
3 日目 : 8 月 7 日 (水)	
9:30~10:20	Common Lecture 4 (Sakata)
10:30~11:20	Lecture 8 (Mitsuhara)  Game-based learning systems
11:30~12:20	Lecture 9 (Ueta)  Oscillation conditions of feedback circuits
13:30~14:20	Lecture 10 (Uwate)  Chaos in brain: relationship between chaos and computation

14:30~15:20	Lecture 11 (Nishio)  Periodic pattern formation by cellular neural networks
15:30~16:20	Laboratory Visit III (Matsuura)
18:30~20:30	Intercultural Party

## Field Trip

Place: Mountain School (Kamikatsu)

1日目：8月8日（木）	
07:45	Gathering in front of Electrical and Electronic Engineering Building
08:00	Departure
08:50	Internship  About Waste Recycling and Kurukuru Shop
09:30	Arrival at Mountain School  Orientation
10:00~11:30	Lecture 1  Giant trees and forestation in Japan
11:30~12:30	Lunch Meeting and Self-introduction
12:30~13:00	Break time
13:00~14:30	Group discussion 1

15:30~17:30	<p><b>Field trip 1 – Nature and traditional culture in Kamikatsu</b></p> <p>Group 1: visiting the terraced rice fields and ancient Japanese house at YAEZI</p> <p>Group 2: visiting the terraced rice fields and Japanese cedar and shrine</p> <p>Group 3: tour in the hill (riverside-woodcarving-temple)</p> <p>Group 4: cooking</p>
18:00	Dinner
19:00	Exchange meeting
20:00	Bathing time
22:00	Bedtime
2 日目 : 8 月 9 日 (金)	
6:00	Getting up and breakfast
8:00~15:30	<p><b>Field Trip 2</b></p> <p>Group 1: Irodori</p> <p>Group 2: Tea harvesting</p> <p>Group 3: Forestation</p> <p>Group 4: Share Café Farm</p> <p>Group 5: Bamboo crafts</p> <p>Group 6: Cooking preparation</p> <p>Group 7: Food purchasing</p>
18:00~20:00	Dinner, BBQ
22:00	Bedtime

3日目：8月10日（土）	
7:00	Getting up and breakfast
8:40~9:40	Lecture 2 Entrepreneur training and charcoal business
9:50~11:20	Group discussion 2
11:20	Closing ceremony



講義風景



研究室訪問

---

### 2.4.3 講義概要

---

実施期間 2013 年 8 月 5 日（月）～2013 年 8 月 11 日（日）

場所 工学部工業会館 2 階（日程参照）

講義内容

#### **Nanotechnology and Materials Science Course**

1. Electron backscatter diffraction (EBSD)
2. Optical properties of plasmonic gold nanoparticles
3. Surface analysis and characterization methods
4. Industrial applications of laser diagnostics
5. Composite materials and its application
6. Introduction to metallic solid-catalysts and the application to the production of the precursor of MMA
7. Cation substitution effects on luminescent property in the oxynitride phosphor for white LEDs
8. Polymers in daily life
9. From ordinary papers to cellulose-based bionanocomposites
10. Basics of inductively coupled plasma spectroscopy (ICP-MS and ICP-OES)

#### **Electrical Engineering and Information Science**

1. Intelligent systems and control
2. Intelligent systems and control
3. Optical processes in semiconductors and its application
4. Collaboration, ubiquitous and social technologies
5. Introduction of semiconductor devices
6. Introduction of semiconductor devices
7. Introduction to biometrics
8. Game-based learning systems
9. Oscillation conditions of feedback circuits
10. Chaos in brain: relationship between chaos and computation
11. Periodic pattern formation by cellular neural networks

## 講師一覧

### Nanotechnology and Materials Science Course

Tatsuya Okada	The University of Tokushima
Shunichi Hashimoto	The University of Tokushima
Daisuke Yonekura	The University of Tokushima
Yoshihiro Deguchi	The University of Tokushima
Yun-Hae Kim	Korea Maritime and Ocean University
Shigeru Sugiyama	The University of Tokushima
Toshihiro Moriga	The University of Tokushima
Koichi Ute	The University of Tokushima
Mikito Yasuzawa	The University of Tokushima
Antonio Norio Nakagaito	The University of Tokushima
Tomoki Yabutani	The University of Tokushima

### Electrical Engineering and Information Science Course

Takashi Yasuno	The University of Tokushima
Takuro Tomita	The University of Tokushima
Hiroaki Ogata	The University of Tokushima
Jin-Ping Ao	The University of Tokushima
Stephen Githinji Karungaru	The University of Tokushima
Hiroyuki Mitsuhashi	The University of Tokushima
Tetsushi Ueta	The University of Tokushima

Yoko Uwate	The University of Tokushima
Yoshifumi Nishio	The University of Tokushima

### Common Lecture

Pankaj M. Koinkar	The University of Tokushima
Michihiro Nakamura	The University of Tokushima
Jun Zaki	The University of Tokushima
Hiroshi Sakata	The University of Tokushima



Intercultural Party にて



修了式にて

#### 2.4.4 エクスカーション

<見学・日本文化体験>

日時：2013年8月8日（木）～2013年8月10日（土）



上勝町で廃棄物の資源化



慈眼寺



農業おどり



お茶摘み



竹を取る



素麺

## 2.4.5 修了証書



徳島大学

*The University of Tokushima*

### CERTIFICATE OF COURSE COMPLETION

Summer School 2013

Name: XXXXXX

Institution: XXXXXX

*This attests that the holder of this certificate has successfully completed the Nanotechnology and Materials Science Course(30 class hours), offered as part of the Summer School Program 2013. The program was organized by the Summer School Committee, associated with the Graduate School of Advanced Technology and Science, The University of Tokushima, Japan.*

*August 11, 2013*

*S. Kagawa*

Susumu Kagawa,  
President  
The University of Tokushima  
Japan

*J. Fukutomi*

Junichiro Fukutomi,  
Dean  
Graduate School of Advanced Technology and Science  
The University of Tokushima  
Japan

---

## 2.4.6 アンケート集計結果

---

# Summer School 2013: Survey

prepared by CICEE, The University of Tokushima

The purpose of this questionnaire is to survey different aspects of the Summer School. It will be useful to improve our organizational skill and the quality of future Summer Schools supported by The University of Tokushima and CICEE.

**1. What were your reasons for attending Summer School? (you can choose more than one)**

- i. The financial and accommodation support [62.5%]
- ii. I want to attend this university in the future [62.5%]
- iii. Because of the location of the University [0%]
- iv. The choice of subjects and activities [75%]
- v. I have friend who applied here too [50%]
- vi. Other reason (please write) [25]

**2. How do you judge the quality in general?**

- i. Overall Program  
Excellent [50%] Good [50%] Average [0%] Poor [0%]
- ii. Quality of lectures  
Excellent [75%] Good [25%] Average [0%] Poor [0%]

**3. How do you judge the academic level of the lectures?**

Very High [62.5%] Good [37.5%] Average [] Low []

**4. How do you evaluate the organization and planning?**

- i. Accommodation  
Excellent [50%] Good [50%] Average [0%] Poor [0%] N/A = [0%]
- ii. Social Events (field trip.....limited students went for field trip)  
Excellent [75%] Good [25%] Average [0%] Poor [0%] N/A = [0%]
- iii. Overall Organization and Planning

Excellent [62.5%] Good [37.5%] Average [0%] Poor [0%] N/A = [0%]

**5. How do you classify the laboratory visits and/or exercises?**

Excellent [25%] Good [75%] Average [0%] Poor [0%] N/A = [0%]

**6. How much influence do you expect the knowledge & skills you learned at the summer school will have on your future?**

A great deal [50%] A lot of [37.5%] Moderate [12.5%] A little [0%] N/A = [0%]

**7. As a result of the summer school do you think you are more or less likely to get involved in research that is interdisciplinary?**

More likely [50%] Likely [37.5%] Less likely [12.5%] Not likely [0%] N/A = [0%]

**8. As a result of attending the summer school, to what extent were you able to achieve goals that are important to you?**

More likely [50%] Likely [50%] Less likely [0%] Not likely [0%] N/A = [0%]

**9. Do you like to participate in future Summer Schools?**

Absolutely Yes [100%] Maybe [0%] No [0%]

**10. The parts of field trip that you liked most?**

- i. Lectures in Mountain School [25%]
- ii. Group discussion [25%]
- iii. Group activity [87.5%]
- iv. Barbeque party [75%]
- v. Dance [12.5%]
- vi. Others [25%]

**11. The parts of field trip that you disliked most?**

- i. None [75%]
- ii. Accommodation [none]
- iii. Group activity [12.5%]
- iv. Others [12.5%]

**12. Free comments on other subjects and suggestions:**

**(Example)**

The SS 2013 covered the interdisciplinary lectures that helped in knowing the idea of research going in the other fields of science. The laboratory session included the work carried at the University of Tokushima by the students and professor's also involvement

in carrying the interdisciplinary research. Happy after knowing the Japanese culture their discipline, honesty and dedication in daily activities. Overall, participation of mine in SS-2013 has improved understanding towards device fabrication work and related interface issues in the area of Nanotechnology in addition to that I am motivated to follow some of the Japanese culture .

#### 2.4.7 成果報告

本学先端技術科学教育部では高度専門職業人の養成に力を入れているが、専門的な知識の獲得だけではなくそれを応用する力、ものづくりに結びつけ、更に工夫して社会に還元する力、グローバルに展開できる力が求められている。本サマースクールにおいて全国有数の地域活性型農工商連携のビジネスモデルとなっている上勝町の『葉っぱビジネス』を題材にビジネスの仕組みや考え方を体験させ、日本人学生、外国人学生を交えて討論させることで、日本人学生にはこれから工学を支えていく高度専門職業人に必要な経営センス、英語によるコミュニケーション能力を身につけさせることが可能となる。一方外国人留学生には工学と環境の調和、徳島の中の日本らしさを体験することで、ダブルディグリープログラムなどで徳島大学大学院先端技術科学教育部に留学する動機付けを与えることができると考えられる。サマースクールは学術交流提携校からの参加が多く、環境・エネルギー工学に力を入れている先端技術科学教育部が提供するダブルディグリープログラムの宣伝機会としての教育効果が大きい。今後は、先端技術科学教育部だけでなく、総合科学教育部や全学共通教育センターとの連携を更に深め、常三島地区のサマースクールとして更に発展させていきたい。

### 3 総括

---

本年度は、昨年度と同様に総合科学部サマースクール、ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム、国際センターサマースクール及びソシオテクノサイエンスサマースクールの4つのサマープログラムを実施した。

実施時期については、例年、7月下旬から8月中旬にそれぞれ実施していたが、本年度は、全学委員会である「サマープログラム等実施委員会」で検討を行い、8月初旬に実施時期を合わせた。このことにより、これまで個別に実施していた歓迎パーティーを8月7日（水）に4プログラム合同で実施することができた。

この4つのプログラムを実施したことにより、海外の協定校等から107人の学生が本学を訪れた。本学からも177名の学生がサマープログラムに参加し、訪問学生と交流を行った。本学から参加した日本人学生には、海外に関心を持つ良い機会となった。

総合科学部サマースクールと国際センターサマースクールは、学部学生を対象とし、HBSサマープログラムとSTSサマースクールは、大学院生を主な対象とするが、それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアー、合同交流会等で徳島大学を知ってもらうと共に、茶道や和楽器、藍染め体験等の日本文化体験、県内企業訪問等を通じて日本の伝統文化や徳島、日本を紹介することができた。海外から参加した学生には、徳島や日本に対する理解を深めてもらい、徳島・日本を身近に感じてもらうことができた。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。例年サマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定する学生もあり、優秀な留学生の確保につながっている。

また、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすると共に、実際に協定校の教員や学生を徳島大学に招き交流を深めることにより学術交流協定校との関係も強化され、本学の教員、職員、学生の国際化を図ることができた。

海外からの参加者からは、これら4つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

## 4 今後の課題とまとめ

---

2013年度に実施したサマースクールにおいて、今後さらに改善を図るための課題として、以下の点があげられる。

### 【サマースクール全体としての今後の課題】

サマースクール全体としての今後の課題として、サマープログラム実施経費の確保があげられる。サマープログラム実施経費については、学内予算として、学長裁量経費を要求しているが、十分ではなく、大幅な増額も見込めない状況である。その他の経費として、日本学生支援機構の留学生交流支援制度（短期受入）プログラムに毎年申請を行っているが、年度によって採択される年と、されない年があり、予算としては、安定していない。このため、サマープログラム等実施委員会における予算配分時において、各プログラムでの効率的な予算運用について、調整を行う必要がある。また、日本学生支援機構の留学生交流支援制度（短期受入）プログラムに毎年採択されるよう申請内容について、毎年、見直しを行う必要がある。

### 【総合科学部サマースクールプログラム】

#### （1）授業について

授業内容についての充実が図られたが、受講および、使用言語についての課題が明らかになった。受講については、それぞれの授業ごとに日本人学生の受講が可能となるようにした。それによって参加する学生が多様になるというメリットはある。3つの授業およびエクスカーションには合計で31名の日本人学生が参加した。そうした場では、多国籍な学生集団となるのであるが、これまでこうした経験を持たない学生が集まることがとなった。また、授業スタイルをピア学習を多く用いた方法で実施したため、学生同士の会話が成立する必要がある。サマースクールに参加する留学生は1年間の日本語学習を終えた学生である。使用する言語は日本語、そして英語の併用を念頭に置いて実施した。しかしながら実際に授業を実施してみると、留学生の日本語能力・語彙力が低い、また今回は英語を母国語とする学生の参加者数が多かったために、英語でのコミュニケーションが主となった。多くの日本人学生及び中国人留学生にとって、言葉の障壁が最後まで残り、また、英語を母国語にしている、あるいはそれに近い留学生にとっては不満の残るものとなつたようである。

本来の趣旨である日本語そして英語を併用した授業を可能とするためには、参加する留学生の出身国のバランスを考慮する必要がある。また、日本人学生においてもある程度、留学生と接するまでの準備期間をも授業・課外学習として設けていく必要がある。

授業の内容としては、座学を中心に体験を一部取り入れる形で実施した。座学の位置付けは、授業内容の理解を図るというものである。座学においては異文化理解のための基礎的な知識が不足している事例が多く見られた。また、コミュニケーションをはかりながら内容を理解していくという学習形態そのものを体験したことのない日本人学生が多く見られた。また体験はある程度知識を座学で得た後に、実施したが、座学と体験を交互に繰り返すことが学習効果が高まることがあきらかになった。こうした知見に基づいて、次年度以降の授業計画を予定している。

## (2) 日本人学生の参加について

サマースクール用の授業を共通教育に独立に3つの授業を開設した。そして、3つの授業の受講とボランティアへ日本人学生の参加を呼びかけた。呼びかけ期間が2週間と短かったことで、開始直前で応募が23名にとどまり、また特に試験期間に重なる第2期にはほとんどの学生が履修を取りやめた。また、応募が、それぞれの授業、ボランティアを選択するようにしたため、日本人学生はサマースクール全体を見渡すことができないものとなってしまった。学生間での役割分担もないため、全ての情報が教員に集中することで、教員の負担が過度になった。

今後はサマースクールに参加する日本人学生を昨年までの、留学生が到着と同時に日本人学生も関わる、個々の役割ごとに募集する、という昨年の方式を改め、一括して5月に日本人学生を一つの授業「Global Communication- volunteer experience in local community（集中講義5月～8月）」の履修という形で募集する。授業の中で役割を決める、訪問前の交流をする、留学生とのピア学習をすすめる、と計画している。

また留学生到着時までに授業内でガイドブックを日本人学生と教員で完成することを通じて、そして留学生は到着後のオリエンテーションで、留学生・日本人学生・実行委員の教員で共有することを計画している。

## (3) 留学生への情報伝達

留学生への申し込み用の広報として、ホームページとブックレットを用意した。どちらもピア学習を主体としたものであることを明記しているものの、日本語の学習を期待しているようである。現在は用意できないため、その明記が必要であろう。

留学生に単位履修の授業が最大3つ用意され、また訪問する授業もあるため、受講するべき授業の負担が多すぎるようであった。エクスカーションも当日のキャンセルが多く見られたので、必修と選択の区別を明確にする必要があるとともに、1週過ぎた段階で参加する授業を学生に登録してもらうことが必要であろう。

#### (4) 教員の体制

教員の受け入れ態勢としては、これまでプログラム作成と実施の作業を2名で実施した。研究室訪問は計画したもの実施には至らなかった。

プログラムの充実においてはさらに数名の教員が実施に関わることが望まれる。そこで、2014年度には実行委員のメンバーを増やすとともに、教員側もある程度の役割分担をして、ブックレットに書き込んでいくことを計画している。

#### (5) 協定について

ダブリン・シティー大学以外の5大学からの参加については、交流協定が準備中ではあるもののサマースクールの開催に間に合わなかったために、合意文書(MOU)を作成した上での参加となった。MOUの有効期限は5年となっているものの、学生の参加・受講体制を確立するためにも早急に交流協定を結ぶ必要がある。

### 【ヘルスバイオサイエンス研究部サマープログラム】

ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院を構成する5教育部の専門領域横断的かつ学際領域を包含する研究内容について、最先端の研究手法と最新の研究成果を教授する講義と研究室見学実習を実施して、留学生に魅力的な教育プログラムを提供することが出来た。研究室見学実習は、受け入れ留学生が直接に研究室で本学教員と面談をし、かつHands-onExperienceを実習できる貴重な機会であるので、その実習の教育効果を高めるため、より細やかな事前準備と受け入れ教官への留学生情報の提供が必要であると考えられた。

本学大学院生には、英語プログラム授業科目として単位認定できる教育プログラムであることから、今後は海外交流協定校において、教育内容の質を保証して単位の認定が可能となるよう協議を進めていくことが必要であると考えられた。

英語による体系的な教育プログラムを開発・実施することで、大学院教育システムの国際化が推進された。今後は、大学院教育を担当する全ての教員が英語での授業を実施できるようFacultyDevelopmentを推進することが必要であると考えられた。

宿舎については、民間宿舎を利用して全員が同一の宿舎に滞在するよう企画したため、プログラム運営が円滑に行えたが、プログラムを実施する蔵本キャンパスと離れていたこと、インターネット環境の充実が課題として挙げられた。今後は、短期滞在を可能とする学内での宿舎の整備が必要であると考えられた。

### 【国際センターサマースクール】

今後に向けた大きな課題としては、以下の3点を挙げる。

#### (1) 日程・期間の課題

参加者の方からは、「もう少し長い期間やってもらいたい」、「プログラム期間中にもう少し休憩時間などが欲しい」というという声が比較的多かった。1週間のプログラムとしても実質滞在できるのは5日程度となってしまうことから、「もう少し長い期間滞在したい」というのが参加者からの要望である。

教職員ならびに日本人学生の都合を考えれば、試験期間とお盆休みを挟んだこの時期が最善であるとは思われるが、例えば「総括授業期間をうまく活用しながらプログラムの予定を組む」などの対応策を考えた方が良いかもしれない。

#### (2) 日本人学生・地域住民との交流の機会を増やす工夫が必要

昨年度はホームステイを行ったが、今年度は諸事情により実施しなかった。ホームステイは、実施前に日本の家や家族などに関する文化的知識や必要とされる語彙・表現を学び、実際に日本人に接して日本人を身近に理解できる良い機会になるので、今後は実施の方向で検討していきたい。

全体を通して、参加者が日本人学生や地域住民と接する時間は少なかった。サマースクールが期末試験の期間と重なっていたこともあり、多くの日本人学生の参加を得ることは難しかった。また、徳島と徳島大学を知ってもらうというプログラムの目的上、地域住民が参加する企画も多く取り入れることができなかつた。しかし、参加した海外からの学生が、徳島にする日本人学生や地域住民と親しくなり、そこから得た実感や知識があれば、将来徳島大学に留学してみよう、という思いを持つに違いない。そこで、今後のプログラムではこれまで以上に日本人学生や地域住民、さらに徳島大学で学ぶ外国人留学生との交流や共に行動する活動を増やし、お互いを知り理解する場を作る工夫が必要であろう。

#### (3) 他学部との更なる連携が必要

本サマースクールでは、参加する留学生に将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうことを第一義的な目的としたわけであるが、その点からすれば、

各キャンパスから教員を派遣してもらい部局紹介をしてもらった点、参加者の専門に応じて研究室訪問を実施した点は高く評価できると思われる。

しかしながら、「徳島大学に留学するのであれば、この先生の下で勉強しよう」と思えるような体験を提供するのであれば、もう少し専門的な体験を提供することが必要であり、感想中にも記載されている、「担当の先生とたくさん話ができたよかったです」、「将来何をすればいいか見つめ直すいい機会になった」、「自分の国の中よりもはるかに進んでいて、とても驚いて感激した」といった体験をより多く提供することが重要ではないだろうか。そのためにも、次回からは、思い切って「研究室訪問をメインとしたサマープログラム」として様変わりすることを検討しても良いのではないだろうか。

### 【ソシオテクノサイエンスコース】

サマースクールの開催機関は夏休み期間でもあり航空機運賃が1年の中でも最も高額な時期である。本サマースクールに参加する外国人学生は、中国や台湾をはじめ、ベトナム、インドネシア、インドなど発展途上の国々がほとんどである。先端技術科学教育部で申請した平成25年度留学生交流支援制度のうち、短期派遣と短期受入れ（交流協定留学型）プログラムは採択されたが、短期受入れ（短期研修・研究型）プログラムが残念ながら不採択になったため、できるだけ多くの外国人学生がサマースクールに参加できるように参加旅費はじめとして、継続して、実施するためには、事業費、活動費を安定して確保する必要がある。

お茶つみ体験はじめインターンシップでは、服装などの準備が大変な部分もあったが、参加学生には非常に好評であった。

本学の第二期中期目標の中で、大学院教育では、教育内容の改善と多様化を図るとともに、国際化を推進することが掲げられている。中期目標の遂行のため、中期計画で掲げられた①教育部の枠を超えた共通科目的導入等により幅広い教育内容と学習環境の構築、学科・選考を横断した教育プログラムの編成に取り組むこと、②英語コースやダブルディグリープログラム等の充実に積極的に取り組み、国際的に活躍できる人材を育成すること、に合致している。また、教育目標を達成するための措置として掲げられている③インターンシップやキャリアデザインなどの関連した科目により知識や技能が社会で果たす役割について学習させる事に強く寄与した。

## 5 参考

---

### 徳島大学ホームページ掲載広報用原稿

#### 徳島大学サマープログラム2013開催

徳島大学では、夏休みを利用して海外協定校から学生・教員を招聘し、徳島での短期滞在を通じて、各部局における特色ある教育研究の取り組み及び徳島の地域の良さを紹介し、将来の留学先として徳島大学をアピールするため、サマープログラム 2013 において、以下の 4 つのコースを実施します。

(報道概要)

徳島大学では、本年度で第 6 回目となる英語による徳島大学サマープログラムとして、大学院先端技術科学教育部ダブルディグリープログラムにおけるソシオテクノサイエンスコースと、大学院医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の各教育部合同によるヘルスバイオサイエンスコースの 2 つのコースを開講します。

また、学部レベルでのサマースクールとして、国際センターサマースクールと、総合科学部サマースクール（8 週間コースと 4 週間コース）を開講します。

- ◆ ヘルスバイオサイエンスコースは、中国、韓国、モンゴルなどの海外から約 30 人の留学生と徳島大学に在籍する留学生等約 10 名の合計約 40 名の参加を得て、8 月 2 日から 8 月 9 日まで開講します。
- ◆ ソシオテクノサイエンスコースは、海外の協定校を中心として中国、韓国、インド、ニュージーランド、台湾などから約 30 名の教職員・留学生の参加を得て、8 月 5 日から 8 月 11 日まで開講します。
- ◆ 国際センターサマースクールは、中国、韓国、インドネシア、台湾から約 40 名の教職員・留学生の参加を得て、8 月 5 日から 8 月 9 日まで開講します。
- ◆ 総合科学部サマースクールは、8 週間コースを 6 月 18 日から 8 月 12 日まで、また 4 週間コースを 7 月 16 日から 8 月 12 日まで開講します。
- ◆ 8 月 7 日（水）18 時 30 分から、これら 4 コースの参加留学生と徳島大学学生、教職員が一堂に会する合同交流会を常三島キャンパス学生食堂（2F）において行います。

## 6 担当者一覧

---

### サマープログラム等実施委員会実施委員長

荒木 秀夫：教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・全学共通教育センター長）

### サマープログラム等実施委員会実施委員

高石 喜久：教授（理事（教育担当）・国際センター長）

金 成海：教授（国際センター）

大石 寧子：教授（国際センター）

Gehrtz 三隅友子：教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

橋本 智：准教授（国際センター）

齊藤 隆仁：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

福井 清：教授（疾患酵素学研究センター）

伊賀 弘起：教授（ヘルスバイオサイエンス研究部・口腔科学教育部）

山崎 哲男：教授（ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部）

坂上 浩：准教授（ヘルスバイオサイエンス研究部・栄養生命科学教育部）

多田 敏子：教授（ヘルスバイオサイエンス研究部・保健科学教育部）

村上 理一：教授（ソシオテクノサイエンス研究部）

### 総合科学部サマースクールプログラム

齊藤 隆仁：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

大橋 真：教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

荒木 秀夫：教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

佐藤 高則：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

久田 旭彦：助教（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

### ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム

福井 清：教授（疾患酵素学研究センター）

赤池 雅史：教授（ヘルスバイオサイエンス研究部・医科学教育部・医療教育開発センター長）

### **国際センターサマースクール「徳島であおう！」**

高石 喜久：（理事（教育担当）・国際センター長）

金 成海：教授（国際センター）

大石 寧子：教授（国際センター）

Gehrtz 三隅友子：教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

橋本 智：准教授（国際センター）

### **ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール**

村上 理一：教授（ソシオテクノサイエンス研究部）

Koinkar, Pankaj M. : 助教（国際連携教育開発センター）

張 東岩：助教（国際連携教育開発センター）

浅田 沢：国際連携教育開発センター事務補佐員

### **事務局**

中谷 毅：国際課課長補佐

藤川 王男：国際課国際交流係長

村澤 普恵：国際コーディネーター

的場かおり：国際課国際交流係事務補佐員

## **徳島大学サマープログラム 2013 報告書**

編集発行：徳島大学サマープログラム等実施委員会

徳島市南常三島町1丁目1番地

088-656-7082

発行年月日：2014年3月31日



